



第2次 北九州いきいき長寿プラン
「介護サービス等の充実」「安心して生活できる環境づくり」
～ 先進的介護「北九州モデル」の推進 ～

【北九州モデルの確立】

少子高齢化による生産年齢人口の減少に伴い、介護人材不足の深刻化が懸念されている。政令市で最も高齢化が進む本市においては、その対応が喫緊の課題である。

本市では、平成28年1月に国家戦略特区の指定を受け、市内介護施設での介護ロボット導入実証や介護ロボット等の開発・改良支援など、介護職員の負担軽減、介護サービスの質の向上、さらには利用者のQOL向上を目指す取組を行ってきた。

令和2年度までの取組の結果、ICT・介護ロボット等を活用した介護現場の新たな働き方「北九州モデル」を確立した。



北九州モデル 概要

【令和3～5年度事業計画】

～社会実装+感染症対策に資する先進的介護の発展～

- ◆先進的介護「北九州モデル」の普及
- ◆ニーズに沿ったロボット技術の開発・改良
- ◆感染症対策に資する新たな「先進的介護」の取組

1 先進的介護「北九州モデル」の普及に向けた取組

(1) 導入・実践をサポートする拠点

「北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター」の開設

令和3年4月、北九州モデルの普及を効果的に行うため、介護施設に対する導入支援拠点として開設（総合保健福祉センター北九州市立介護実習・普及センター内）

(2) 市内介護施設への北九州モデルの導入支援

導入支援・普及促進センターが中心となり、市内特別養護老人ホームに対して、「北九州モデル」の導入支援を実施、業務改善に取り組んでいる。

また、本年度から対象施設に老人保健施設を加え、支援を拡大。

【導入支援状況】

- ・令和3年度：特別養護老人ホーム5施設
- ・令和4年度：特別養護老人ホーム4施設、老人保健施設1施設

(3) 専門人材の育成

介護ロボット等を効果的に活用できる専門人材の育成を目的として、平成29年度から「介護ロボットマスター育成講習」を開催。

令和4年度は入門編、実践編、管理編に講習を再構築。中核となる実践編は、従来年1回の開催を、4つの対象機器分野で8回の開催へと拡充するとともに、メーカーによる実機体験も実施して内容の充実を図っている。

【実施状況】

- ・令和3年度は初級・中級・上級の3コースを開催、165名が受講。
- ・累計459名の介護ロボットマスターを輩出

(4) 「北九州モデル導入・実践ガイドライン」の作成

- 令和4年3月、北九州モデルの導入を促進するため、「北九州モデル導入・実践ガイドライン」を作成し、入所系の市内介護施設へ配布
- ガイドライン配布に合わせて概要動画を作成、広報・周知を図った

2 ニーズに沿ったロボット技術の開発・改良の取組

(1) 「北九州市介護ロボット等普及開発ネットワーク」の設立

介護ロボット等の導入支援の強化や、介護現場ニーズに沿った機器の開発・改良を狙って、開発メーカーや関連団体などからなる「北九州市介護ロボット等普及開発ネットワーク」を設立。

【実施状況】

- ・会員数：43団体（うち、市内14団体） 令和4年9月末時点
- ・介護ロボット・ICTの情報発信セミナーの開催（令和3年8月）
- ・製品ニーズ調査や開発の相談対応：47回

(2) 北九州産業学術推進機構（FAIS）と連携した研究開発の推進

- 平成28年度から、FAISの「研究開発プロジェクト支援事業」と連携し、介護分野の製品開発や技術開発を支援
- 令和3年度は、排泄動作支援機器や装具の開発など4件の技術開発を支援

3 感染症対策に資する新たな「先進的介護」の取組

(1) 感染症リスク低減のための換気方法の研究

感染症対策に資する新たな取組として、コロナ禍における施設の室内環境下での持続可能で効果的な換気方法について、産業医科大学と連携し研究を実施。

研究成果は市ホームページで公開するとともに、わかり易くリーフレットにまとめ、市内施設へ情報提供。

【実施状況】

- ・市内の特別養護老人ホーム6事業所で実証
- ・リーフレット「介護事業所向け効果的な換気方法に関する6つのポイント」を作成

(2) 「遠隔・非接触」を推進する働き方の高度化に関する検討

- 施設内の感染症対策の影響を受け、施設利用者の運動の機会が大幅に減少
 - ・状況改善のため、運動への介護ロボット導入について調査
 - ⇒介護職員との接触機会を低減し、感染症予防及び歩行機会の確保において有効であるということが判明
 - ⇒しかし、歩行訓練において介護ロボット等を活用する事例は少なく、効果的な運用方法などは確立されていない
- 本年度、特区の特例措置も活用し、ロボットを活用した歩行訓練の実証を実施
 - ・日常の生活での手引き歩行や車椅子での移動を、介護ロボットを使った移動への置き換えを行い、生活の中に歩行訓練機会を創出
 - ・介護ロボットの活用により、歩行訓練の安全性を確保しつつ、機能訓練指導員に加えて介護職が訓練を行える運用モデルの構築を目指す

(3) 介護データの分析による「予測型介護」の研究

北九州モデルの付加価値を高める新たな取組として、センサーや介護記録システムを活用し、特別養護老人ホーム入居者の体調変化につながる兆候を適切に判断できる仕組みづくりを行うための研究を開始。

研究は、令和5年度までの予定で、産業医科大学、九州工業大学と連携して取り組み、仕組みを通じて介護の質の向上、利用者のQOL向上を目指す。

4 広報・PR

先進的介護の実現に向けた本市の取組を広く全国に情報発信することで、介護事業者やロボット開発メーカー、厚生労働省をはじめとした国の関係機関・団体等との連携強化を図っている。

市ホームページでの情報公開、業界誌などへの寄稿、出前講演や視察の受入れ、Webセミナーへの登壇やTV番組への出演など、積極的に情報発信に取り組んだ結果、令和3年度は視察や取材件数が大幅に増加した。

【視察・取材実績の推移】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
視察件数	22件	6件	11件	6件
取材件数	10件	2件	13件	6件

5 成果指標と達成状況

(1) 行政評価指標（KPI）

本事業の成果は、下記指標を行政評価項目として位置づけている。

令和3年度の年次目標は達成しており、着実に中期目標に近づいている。

【令和3年度実績】

- ・北九州モデル導入を含む職場改善件数 5件（令和5年度までに15件）
- ・介護ロボットの導入施設数 29件（令和5年度までに77⇒120件）

(2) 介護ロボット導入状況調査

当事業の進捗を把握するため、市内の介護施設・事業所における「介護ロボットの導入状況等に関するアンケート調査」を毎年度実施。

【令和3年度アンケート調査】

- ・特別養護老人ホームでの普及率が51.2%に拡大（前年度45.7%）
- ・今後の導入を考えている機器上位は、見守り、移乗介護、介護記録